

自立活動：「身体の動き」 手作業に関する取組について2

ダジャレかるた作りは、他の2ケースでも行いましたが、評判は散々でした。「だじゃれなんってやりたくない」とか、「なんでこんなことをしなければならんだ」といった具合でした。一人に上手いかったからといって、他のケースで上手いかなといったことは、良くあることです。そこで、次のケースには、以下のような意味付けして、やってみようと思うきっかけを作りました。

・小学部の小さな子どもたちが勉強するためにつくります。中学生のお兄さんがつくってくれたと聞いたらみんな喜ぶと思うよ。

この生徒は、落ち着きがなく注意されがちでした。自立活動室でも、決まったメニューがあってもいろいろな生徒のところに出歩くなど座ってられないといった様子でした。そこで、授業の後半に作業メニューを用意し、一回の授業で20分ほどの手作業を意味付けして促しました。人のためになることを授業で取り組むことは、作業するモチベーション維持につながったように思います。こういった「やろう」といった気持ちを作らないと、学習指導要領自立活動編、区分5「身体の動き」(5)の作業に必要な動作と円滑な遂行に関するこの目的を達成することは難しいのだと思います。

【ドミノづくり】：生徒の主な作業内容は、片手でドミノを固定して、ねじ止めすることです。



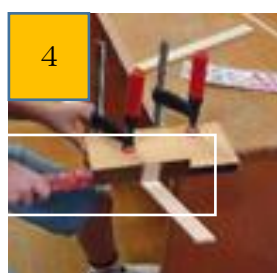
・白枠の丁番をドライバーで4か所止める作業をしました。
・ドミノを置く位置は赤枠の中の黒枠の位置に置き、作業をしました

*左記のすべてのドミノ作りを実施しやり遂げました。

*この生徒は、現在特例子会社に就職したと聞いています。この自立活動の取り組みも、何らかの良い影響になったと思います。

【木工作業】 作業内容は、のこぎりで木の切断や金槌でダボを打つなどです。

ダジャレかるた作業を嫌がったもう一人のケースには、ゲームに出てくるような洋剣を作りたいといった希望が出てきました。自分で希望した取り組みは、とても集中して取り組めていました。その流れで、次の年に、コリントゲーム作りを教員としました。この頃には、苦手だった手作業にも積極的に取り組めるようになってきました。



・写真4の板の横に磁石がついていて、のこぎりがそこに張り付く仕組みになっているため、操作しやすくなっています。



自立活動担当 諏訪勝己